

第5回 甲府市上下水道事業推進会議 会議録

- 会議の名称：第5回 甲府市上下水道事業推進会議
- 開催日時：令和7年11月21日（金）午後3時00分～午後4時30分
- 開催場所：甲府市上下水道局 3階大会議室
- 出席委員：石平博委員、落合圭子委員、太郎良留美委員、
河西孝美委員、雨宮登美子委員
- 欠席委員：野村千佳子委員
- 傍聴者数：傍聴者なし
- 次第
 - 1 開 会
 - 2 報告事項
 - 3 議 事
 - (1) 甲府市上下水道事業の経営状況について
 - (2) その他
 - 4 事務連絡
 - 5 閉 会

■ 審議内容

(会長)

それでは、次第の3「議事」になります。まず(1) 甲府市上下水道事業の経営状況について、事務局より説明をお願いします。

そのあとに委員の皆さまのご意見やご質問等をお伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは、事務局から説明をお願いします。

《事務局説明》

- (1) 甲府市上下水道事業の経営状況について
 - ・ 令和6年度上下水道事業決算と水道料金・下水道使用料について
 - ・ 経営比較分析表
 - ・ 水道事業等の経営状況に関するダッシュボード

(会長)

ご説明ありがとうございました。

それでは、(1) 甲府市上下水道事業の経営状況について、3つのテーマを説明いただきましたが、委員の皆さまのご意見やご質問等をお伺いしたいと思います。なかなか難しい

ところもあるかとおもいます。もしよろしければ、それぞれの資料を、振り返りながら、ご質問いただければと思います。

まず資料2ですが、令和6年度の上下水道事業の決算と、水道料金や下水道使用料、この辺が興味のあるところかと思えますけど、これについてのお話をいただいたと思います。幾つか確認もしながらなんですけど、どうしてもこういう、行政が運営している事業なので、かなりの税金を使って運営している事業というイメージをお持ちの市民の方が多いと思われるが、独立採算ということで、主な収入は水道料金や下水道使用料で賄っているという理解でよろしいですか。

(事務局)

はい、その通りです。水道事業は、ほぼ全額を水道料金で賄い、下水道事業は、定められた基準の範囲での、国からの交付金や一般会計の繰り出し金以外は下水道使用料で賄うことができます。

(会長)

ということで、独自の財源でということですね。上下水道事業は、巨大なインフラ施設を整備してから、長期にわたってサービスを提供していくということである意味、先行投資型の事業だと思われます。資本的収支で浄水場や管路などの施設を整備して、完成後に、サービスを受けた使用者が、その年の損益的収支の減価償却費等の費用相当額を、水道料金として応分の負担をするということよろしいですか。

(事務局)

はい。

(会長)

あと、この令和6年度決算資料の8ページあたりですかね。収支で見ると、利益は出ているということよろしいでしょうか。

(事務局)

はい、そのように考えております。令和6年度決算上は収益的な損失や、資金不足が生じていない状況にありますので健全な経営状況であると、現状考えております。

(会長)

ありがとうございます。このように運営されている上下水道事業ですが、毎日の生活を見てもいろんなところで使われています。洗顔でもそうですし、炊事・洗濯などにも使っているわけですが、水道料金は他のいわゆる公共の料金、ガスとか携帯電話と比べて、皆さんは

どういう印象を持っていますか。高いらしいとか、いろいろな要因で地域差があると思うのですが、皆様のイメージも含めて、伺えればと思います。実際に払われている料金として見たとき、印象も含めて感想をお願いします。

(委員)

一市民としての感覚的なところは、私、マンション住まいで、使っているお部屋と、荷物を置いている部屋と両方の水道料金を支払っているのですが、それぞれでほとんど差がないので、基本料金は、きちんと使わなくても使っても、料金を取っているなっていう、お支払いしているっていう感覚ですが、水道料金に関しては特段そんなに高いイメージはないですね。

今後、高くなっていくっていうことは、予測できる中で、甲府市は今の資料も見まして、利益を出ているということなのでうまくやってくださっているなっていうイメージではあります。

(委員)

料金体系が高いというイメージはなく、料金がこれくらいになりましたという紙がポストに入っていますが、それを見ても、特に高いなっていう印象は持っておりません。料金体系に関しては、適正ではないかと考えております。併せて質問をさせていただきます。

決算について水道事業に関しては、料金改定を行ったことがメインで収益が増加しているということでしょうか。それ以外に要因はありますか。下水道使用料についても増加した要因を教えてください。

(事務局)

まず、下水道使用料につきまして地下水を使用している大口事業所の稼働状況が高くそれが影響して使用料が増加しました。給水収益については、料金改定により約3億5,000万円増したことが増加した要因となります。

(委員)

ありがとうございます。収入が増加したということは大変素晴らしいことだと思います。下水道使用料の増加は、企業の使用量が増えたという理解でよろしいですか。今後、長期的に見て、安定して今の状態が維持されるのか、それともたまたま今回多かったのか企業もよほどのことがない限り安定して利用を続けていただくという理解でよろしいですか。

(事務局)

この先もずっと右肩上がりというわけではないと思われませんが、今後も注視していきたいと思えます。

(委員)

私も主婦ですので、1つ1つ理解することは、何度読んでもなかなかできないのですが、子どもが山梨に帰ってくる度にお水を買って帰るのですけども、とにかくおいしいということ。また、水の料金は、高くないし、特に夏はすごく暑くて、クーラー使ったり、水を撒いたりしたけれども、そんなでもないということ。うちのお嫁さんが北海道のおいしいお水と比べても同じくおいしいし、料金は、甲府に帰ってきた方がお母さん安いよと。私はずっと甲府にいますので、わかりませんが、おいしいことと、制限されないことがとってもありがたいです。一生懸命勉強して、少しずつでも皆さんに伝えてあげることができたら嬉しいなと思っております。

(委員)

私も、こういう数字を見てもよくわからないのですが。私は病気があって寝る前にペットボトルに水道水を入れてよく飲むのですが、水道水がこの缶一本分でいくらするのかわかりませんがだいぶ安いと思います。甲府の水道水はおいしいし、冷やすと特にのどごしがいいし、そういう意味で安いなと思って利用させていただいております。それとですね、大分県の火事がありましたが、130棟~140棟くらい焼けて、一番やっぱり困るのは電気、水道、ガスとあるのですが、電気、ガスはちょっとなくても生きてはいけるんですよ。これ水道がないと、人間って生きていけないので。やっぱりライフラインで常に問題なく、水が送られてくるのは、非常にありがたいことですね。糸魚川でも同じような火事があったというニュースやってますが、道路に、消火用の管があるということで、水道事業として、防災の方と、甲府市では、何かやられているのかどうか知りたいです。

(事務局)

アルミボトルに関して、水道水の製造にかかる原価自体は1円にもいかない数十銭というところですが、1本あたりボトル詰めする作業等で110円程度かかり、それが売値と変わらない状態となっています。

(委員)

これの非常に冷えがいいですよ。

(事務局)

災害時の水の貯留ですけれども、市の防災と協力しまして、小学校、中学校、あと災害拠点に、非常用貯水槽を設置しております。災害時には貯水槽から水をとっていただいて使用していただくかたちとなります。あと、消火栓の設置は甲府市の計画したものに従い、行っております。

(委員)

学校に設置しているのは、飲料もできるようになっているのですか。

(事務局)

はい、そうです。

また、各配水池におきましても、飲み水も考慮していますけれど、消火栓を使用した場合の使用量を考慮しまして各施設設計しておりますので、災害が起きたときも対応できます。

(会長)

いろいろ意見いただき、一般には甲府の水道料金高いのじゃないかみたいな印象もあったり、客観的に見ると妥当かなというかですね。あと、アンケートで見たこともあるのですが、市民の皆さんで冷静に見ている方は、必要なコストがあるので、妥当だなという判断が多かったように記憶しております。ただ、他との比較だと、みる材料がないのでそういう意味でいうと、この資料3経営の比較で、他と比べて、客観的なデータとして見るというのができたかと思います。もちろん町の規模が全然違って比較しようがないのですが、ここでいう類似団体は、具体的にはどんなところとなりますか。

(事務局)

具体的な類似団体がどこかということですね。近隣ですと、水戸市、前橋市、長野市、松本市などが該当しております。地方の中核市的な都市が該当します。

(会長)

なるほどそうですね。比較的良好に見えている、あまりまずいところがなさそうだといいところだと思うのですが、一方で有形固定資産減価償却率だとか管路老朽化率は比較的高いというデータも出てきたかと思いますが、全体的にその施設の老朽化の状況を教えてください。

(事務局)

下水道につきましては、供用開始昭和37年から開始しまして、60年以上経過しておりますので、施設の老朽化が進んでおります。普及から維持管理の時代に入っておりますので、ストックマネジメントに基づきまして、施設の状況確認、調査、点検し、適切な修正や改築を着実に進めている状況です。

(事務局)

昭和33年から60年以上経っているので、もう償却しきっているところが多く、結構古

い状況にはなってきています。全国平均 38%ですから、それに比べれば早くから下水道管が普及しているのに、老朽化しています。ただ、八潮市の事故後の緊急点検では、緊急に対処する箇所はありませんでした。緊急ではありませんが 5 年以内に修繕が必要な箇所がありました。

(事務局)

八潮市の道路陥没事故を受け、行った点検では、機能停止となるような異常はございませんでした。ただ、今後につきましては、交付金を活用しながら、予防保全も踏まえた事業を実施していきます。

(会長)

なかなか難しいところですけど、注目も高くありますので、きちんとチェックされているということかと思います。水道の方も、全体的にはよい指標で問題は少なそうなのですが、有収率が少し低いというお話があったかと思います。どうやってこの辺を改善するか少しご説明いただければと思います。

(事務局)

有収率については、類似都市に比べますと、少し低い状況です。主な原因といたしましては、地下漏水だと認識しているところです。前回の推進会議でもご紹介させていただいたのですけれども、今年度、人工衛星を活用した調査を採用し、進めているところです。今後はそういった作業を進めながら、有収率を上げていきたいと考えています。

(会長)

ありがとうございます。あとは使う管種を変えてみるなど、いろいろ工夫をされながら対応されていると思います。それらを含めて資料 4 のダッシュボードなどで数値が見えるようになってきているのだと思います。それで、いろいろな数値が出てきましたが、経営比較分析表なんか見ると、人口規模など、いろんな影響がありそうですが、その辺はいかがでしょうか。

(事務局)

そうですね、前の資料でも説明させていただいたように、地理的要因や人口密度などにより、地域差がどうしても生じます。そのため、需要減少や職員確保など、様々な課題に今後対応していくために、いろんな対策が必要となってくるかと思います。

(会長)

いろいろ見えてくるところもあるのですが、例えば散布図で全国や県内での位置付けに

ついて、給水原価が高いほど供給単価が高いというこの右上がりの形になっていますけれども、供給単価の低い都道府県では料金回収率が100%を切っている、いわゆる原価割れの団体が確認できます。このような状況に対して、国から要請のようなものはあるのでしょうか。

(事務局)

国からは料金は、3年から5年のスパンで見直すということ。また、適正な水道料金の設定について各種通知が発出されているような状況にあります。昨年度改定に携わっていただきましたが、経営戦略の策定や改定にあたっては経費回収率の向上ですとか、料金水準の適正化が求められている状況であります。

(会長)

さらに県内でまとめられている表もありますが、回収率が低い団体が比較的多いという状況かと思えます。あとは、企業債残高の給水収益に対する割合が県内の他の市町村と比較して少ない状況が示されていますが、この指標の増減はどのような要因によるものなのかを教えてください。

(事務局)

甲府市は企業債の依存度が低い状況で79%。高いところを見ますと、中央市は、1000%を超えている状況にあり、比べると低い状況であるのですが、施設整備をした時期や、償還の進み具合で変わってきます。本市は荒川ダムや浄水場を、建設した時期には大きな残高がございました。ただ、償還の進行から現在は残高が少ない状況にあります。

(会長)

ありがとうございます。他に何かご質問等お気づきのところがあればと思いますが、いかがでしょうか。重要な点がいくつかありましたが、料金のことについて皆さんからご意見をいただき、感覚を聞けました。あと、具体的なデータを見ながら、他と比べてどうか、確認できたため良かったと思います。

(委員)

資料中に昭和町がないが、これは甲府市といっしょなのではないでしょうか。

(事務局)

昭和町は甲府市上下水道局の給水区域となります。

(委員)

毎年 5 月くらいにミズナラを植樹するイベントがあると思いますが、ミズナラの木はウイスキーの樽にできると聞きました。これを売った際のお金の流れはどうなるのでしょうか。

(事務局)

水源林植樹の集いにつきましては、本市の市有林に、水の保水率が高いミズナラを植樹しております。樽の話になりますが、把握をしておりませんので、ちょっとお答えができなくて申し訳ないです。

(委員)

ミズナラの木は実がなりますか。実のなる木なら熊の問題もあるかと思ひまして。

(事務局)

植林した後に、簡易なネットで植林を囲うようにしております。実については把握しておりません、申し訳ございません。

(会長)

どうもありがとうございました。

以 上